

国内外来魚イトモロコの天降川からの記録

池 俊人

A Record of the Domestic Alien Fish *Squalidus gracilis gracilis* (Cypriniformes: Cyprinidae) from Amorigawa River, Kirishima City, Kagoshima Prefecture

Toshihito IKE

はじめに

イトモロコ *Squalidus gracilis gracilis* (Temminck and Schlegel, 1846) はコイ目コイ科スゴモロコ属に属する淡水魚である。自然分布域は濃尾平野以西の本州、四国北東部、九州北部、長崎県壱岐・五島列島福江島だが、神奈川県相模川や静岡県にも移殖されている（細谷, 2013; 瀬能, 2013）。

鹿児島県は上記の自然分布域には含まれていないが、国内外来魚としての本種が侵入・定着した河川が増えつつある。今回、霧島市の天降川で本種を採集したので、その記録を報告する。

採集個体の記録

2015年10月17日、霧島市牧園町馬込の天降川において本種を採集した。採集地（図1）は国指定天然記念物「天降川流域の火砕流堆積物」の指定地にあたり、河床の大部分が平坦で、甌穴が発達して独特の景観を構成している。水深の浅い瀬の岩盤上には、希少植物カワゴケソウの群落が見られることでも知られる場所である。

川岸近くの水深約80cmの場所でタモ網による採集を行ったところ、イトモロコを2個体得ることができたほか、遊泳中の本種を約30個体目撃した。なお、このとき本種の他に確認した魚類は、カワムツ、タカハヤ、カマツカ、ドンコであった。採集した本種は持ち帰って一旦冷凍し、後日解凍して10%ホルマリンで固定した後、70%エタノール液浸標本として鹿児島県立博物館に収蔵した（図2）。

採集した個体の体色は銀白色で、2個体の標準体長は49.6mmと43.5mmであった。鰭条数や側線鱗数な

どの数的形質や、側線鱗が他の鱗より幅が広くて暗色斑があるなどの特徴が細谷（2013）の記載によく一致したため、イトモロコと同定した。本報告で用いた標準和名と学名も、細谷（2013）に従ったものである。



図1. 天降川周辺の地図

●：今回イトモロコを採集した地点、地理院地図（<http://maps.gsi.go.jp/>）を加工して作成

* 鹿児島県立博物館：〒892-0853 鹿児島県鹿児島市城山町1-1



図 2. 天降川で採集されたイトモロコ *Squalidus gracilis gracilis* (Temminck and Schlegel, 1846)

採集日：2015年10月17日，採集地：霧島市横川町馬込，採集者：池 俊人，
鹿児島県立博物館標本番号 FI01500001，標準体長49.6mm

所見

鹿児島県内からの本種の生息地としては，これまでに薩摩半島の川内川（鮫島ら，2014）と大隅半島の肝属川（米沢俊彦氏からの私信）が知られている。今回，従来知られていた生息地の両河川から離れた位置にある天降川からも確認されたことで，県本土における本種の分布が急速に拡大していることが示唆された。本種が県内に移入された時期や経路などは不明であるが，今後さらに他の河川にも侵入・定着することが危惧される。

謝辞

鹿児島県環境技術協会の米沢俊彦氏には，本種の鹿児島県内の状況について教えていただいた。ここに感謝申し上げます。

引用文献

- 細谷和海(2013)コイ科 Cyprinidae. 日本産魚類検索全種の同定，第三版(中坊徹次編): 308-327. 東海大学出版会，神奈川。
- 鮫島正道・宅間友則・今吉 努・徳永修二・下沖洋人・東郷純一・豊國法文・角 成生(2014)川内川曾木分水路の自然再生の現状 河道掘削竣工後のエコシステムの回復. *Nature of Kagoshima*, 40:141-153.
- 瀬能 宏(2013)国内外来魚とは何か. 見えない脅威“国内外来魚”どう守る地域の生物多様性(日本魚類学会自然保護委員会編): 3-18. 東海大学出版会，神奈川。